



厄年を危く経過して

濱崎 善三 郎

去年の春の一日、事務室で仕事をしていると、庶務課の青山勤君が「水戸から石刷を持って来て下さるが見ないか」と云う。應接室に行つて見ると、光岡公東湖等の石刷を、展べてある。...

高谷 眞

兄さん戦地へ出陣した夜は青背戸に月がこよみが三月めくられて今夜もお背戸に...

講 談

悲劇 林 奎兵 衛作 (81) 金子 士郎 書 人か鹿か (三)

光岡公は、元祿四年五月六十四才のとき西山莊に隠居せられ、その年十二月、水戸家歴代の墓所瑞龍山に公自ら「梅里先生墓」と題せられた石碑を建てられ、その石碑の裏面に、此の御自撰の碑文を彫られたのであります。...

「先生は常州水戸の産なり、其の伯(長兄)疾み其の仲(仲兄)天す。先生夙夜膝下に陪して戦々兢兢たり。其の人と爲りや、物に滞り、事事に著せず。神儒を尊んで神儒を敬。佛老を崇めて佛老を排す。常に賓客を喜ぶ殆んど門に市す。暇ある毎に書に讀み、必しも解するを求めず。歌へども歌びを歡びとせず。憂ひども憂ひを憂とせず。月の夕、花の朝、酒を酌み意に適...

行發日四月一 (刊休日翌日祭曜日) 寄五五八〇一發振京東

天氣豫報 今晩も明日も北西の風

丁丑歳暮 珠雲 小野務平 早已王師拔擢都 歡聲四海頌鴻圖 野人守儉元其所 統後勿忙歲年恒



「その時、曲者が、裏切者。思ひ知れぬと云つたさうだが、確かにさうか?」 「私共は、娘の親龍が遠く離れてしまつたので、よく聞き取れませんでした。娘がさう聞きませんでしたか?」 「その親龍はまだあるのだらうな?」 「その言葉に應じて...

「へい、親方、あつし共で御座んす。二人の親龍屋がスツと顔を出した。茂十は親龍屋の聲に振り返つた。『お前達は誰かにさう聞い返つた。』 「お前達は誰かにさう聞い返つた。』 「お前達は誰かにさう聞い返つた。』

上原 家政婦會 會主産婆 上原通子 電話二二番

靈効散 胃腸藥 胃腸病、心臓病、痔、通應藥

阿康藥局 地方調劑所 電話四四番

婦人科 午後住宅診 午後住宅診 午後住宅診

近眼老眼亂視眼用 玉屋眼鏡店 是非一度御来店下さい

シン販賣 新品家庭用シン各種職業用シン各種

シンガミシン會社支店 外務社員 集金人 小売店採用

根本醫院 産科專門 本市南町五二

福島縣立代用精神病院 郡山脳病院 郡山市外大槻村針生

吉田眼科醫院 醫學士 吉田久雄 平市紺屋町電話六八番

水野化粧院 御得意様への御禮に! パーマネントウェーブ

磐城の御みやげ品 靈峰羊羹 (名産柿煉)

江尻醫院 診療時間 午前八時ヨリ午後九時マデ

皮膚科 泌尿器科 性病科 門專

水野化粧院 御結婚御氣付 和洋結婚 美術顔面

サロシ 飲食場 喫茶 酒場を兼ねた

吉田眼科醫院 醫學士 吉田久雄 平市紺屋町電話六八番

福島縣立代用精神病院 郡山脳病院 郡山市外大槻村針生

根本醫院 産科專門 本市南町五二

シンガミシン會社支店 外務社員 集金人 小売店採用

近眼老眼亂視眼用 玉屋眼鏡店 是非一度御来店下さい

シン販賣 新品家庭用シン各種職業用シン各種

根本醫院 産科專門 本市南町五二

福島縣立代用精神病院 郡山脳病院 郡山市外大槻村針生

吉田眼科醫院 醫學士 吉田久雄 平市紺屋町電話六八番

水野化粧院 御結婚御氣付 和洋結婚 美術顔面

江尻醫院 診療時間 午前八時ヨリ午後九時マデ

磐城の御みやげ品 靈峰羊羹 (名産柿煉)

水野化粧院 御結婚御氣付 和洋結婚 美術顔面

サロシ 飲食場 喫茶 酒場を兼ねた

吉田眼科醫院 醫學士 吉田久雄 平市紺屋町電話六八番

福島縣立代用精神病院 郡山脳病院 郡山市外大槻村針生

根本醫院 産科專門 本市南町五二

シンガミシン會社支店 外務社員 集金人 小売店採用

近眼老眼亂視眼用 玉屋眼鏡店 是非一度御来店下さい

シン販賣 新品家庭用シン各種職業用シン各種

根本醫院 産科專門 本市南町五二

福島縣立代用精神病院 郡山脳病院 郡山市外大槻村針生

水野化粧院 御結婚御氣付 和洋結婚 美術顔面

